

第1回 科学のひろばのお知らせ

JSA 鹿児島支部の皆様

今年度最初の第1回 科学のひろば（「日本の科学者」懇話会を名称変更、通算第9回）を下記の要領で開催致します。どうぞご参加ください。終了後の懇親会も予定しています。

題目： 英語教育の現実解としての「英語の見える化」

報告： 板倉 隆夫氏（鹿児島大学名誉教授・特任教授）

日時： 7月13日（水）18:00～20:00（報告60分、模擬授業30分、討論）

場所： 鹿児島大学附属図書館水産学部分館セミナー室（下荒田キャンパス）

報告者からひとこと

水産学部では1999年に「実用英語」（8単位）を開講し、熱心な非常勤の先生方の指導をいただき、学生の人気は高かったのですが、学生は英語がわかるようになったとは言えませんでした。ところが、2012年の「科学英語」を担当した先生から次のようなメールをいただきました。「今までの学生は、英単語の訳語を適当につないで、それらしい（英文の意味とは全く違う）日本語訳を創作していたが、今年の3年生はすごい。英文を訳せるだけでなく理解できる。」実は、その学生達が1年生の時（2010年）、私は「英語コアU」の授業に乗り込んで教壇に立ちました（15回のうち10回ほど）。それがきっかけで、非常勤の先生方の賛同を得て「実用英語」でも私のメソッド「英語の見える化」を採用していただきました。私自身も、研究室の毎朝のゼミ、院の「英文輪読」、連大の「英語論文作成指導セミナー」、全学のAO入試入学者向け補習授業などで効果を実感してきました。その成果が認められ、この3月に定年退職した後、特任教授（学部の英語教育全般を担当）となりました。

研究室では2008年からこのメソッドを始めたのですが、ある日、学生がぶっきらぼうに「初めて英語がわかりましたよお。」と言いました。この言葉で「英語の見える化」が英語教育の現実解である可能性に気づかされました。それが2010年の「英語コアU」につながり、現在、非常勤の先生方5名の協力をいただいています。今の私は公開講座を主な実践の場としていますが、3クラスで20数名（1/3が鹿大職員）の受講生の笑顔が生きがいの1つとなっています。英語を英語として理解すると笑顔になります。

「現実解」とは言ってもメソッドですから根拠も理論もありますが、経験しないとわからないので、今回は、iPad（19台持っています）を使った模擬授業も行います。

世話人より：車の方は水産学部の門の右側にあるインターホンのボタンを押して研究会に来たことを話せば、門にある鎖を下げてください。出るときは板倉さんが鎖を下げてください。

世話人：園屋高志 Tel：090-4994-8881 Email：MHA01407@nifty.com

田島康弘 Tel：090-2508-9117 Email：y.tajima@beach.ocn.ne.jp